



みやざの明治村 とよま資料館だより

だてなりくん

教育資料館編 第8号

// 旧登米高等尋常小学校を設計した山添喜三郎が
登米市内に設計・監督した建物は他にありますか？ //

山添喜三郎は宮城県職員となった明治18年以降、登米郡内の公共施設の設計・監督に携わりました。その中で主要な建物として、図1の旧登米高等尋常小学校校舎（教育資料館）、図2の旧登米警察署庁舎（警察資料館）、図3の旧佐沼尋常高等小学校及び図4の登米郡役所があります。この4施設のうち、現在も保存されている施設は、登米町内にある教育資料館及び警察資料館の2館となっていました。

県内の施設では、明治36年に旧伊達邸鐘景閣の企画設計に従事、大正2年には松島の五大堂と観瀬亭の修繕、松島パークホテルの施工監理にも携わりました。

松島パークホテルは大正2年に竣工しましたが、残念なことに、昭和44年の火災により全焼してしまい、今では写真でしか見ることができません。

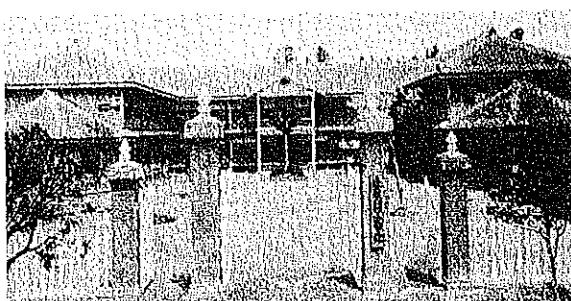


図1 旧登米高等尋常小学校校舎(現教育資料館)
(文化財校舎のあらましより)

資料提供：登米市教育委員会

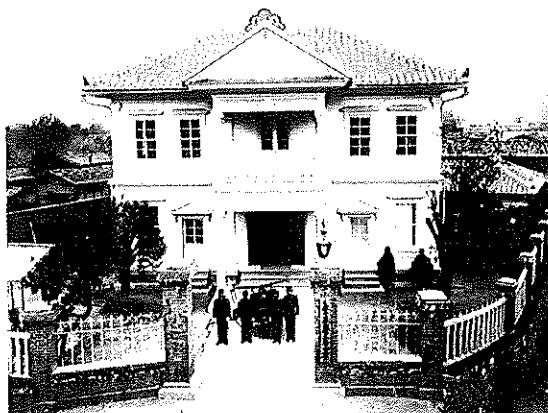


図2 旧登米警察署庁舎(現警察資料館)

資料提供：登米市教育委員会

図1の旧登米高等尋常小学校校舎は明治21年10月に落成しました。この字型木造二階建て、延べ床面積約1,611m²です。国重要文化財に指定されています。落成した頃に撮影された写真です。

図2の旧登米警察署庁舎は明治22年4月に落成しました。木造二階建て、延べ床面積約313m²、県重要文化財に指定されています。

図3は旧佐沼尋常高等小学校で明治21年12月に落成しました。L字型木造二階建て、延べ床面積約1,504m²、バルコニーが二つあるのが特徴です。

図4は旧登米郡役所です。木造二階建て、延べ床面積約545m²、明治20年10月佐沼町内に落成しました。

※喜三郎は大正6年12月、内閣から宮城県技師に任命され、翌7年1月に満74歳で宮城県職員を辞職しました。

当時の技師とは、中央官庁の技術系技官の上位の職位でした。特別の扱いを受けたようです。



登米市歴史資料館・高倉勝子美術館

発行/編とよま振興公社

〒987-0702

宮城県登米市登米町寺池桜小路2-1

Tel: 0220-52-5566

Fax: 0220-52-2630

<http://toyoma.co.jp>

発行日: 令和4年4月6日

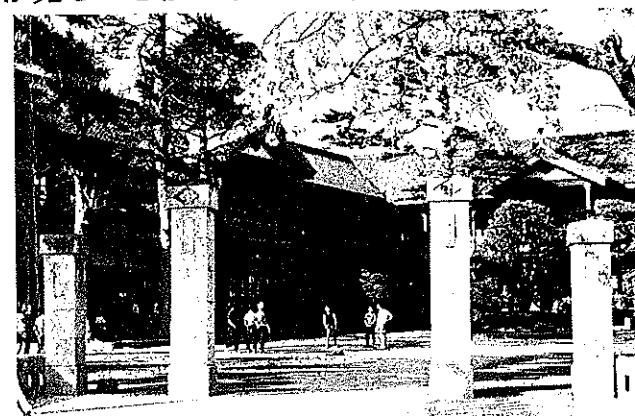


図3 旧佐沼尋常高等小学校(佐沼小学校百年のあゆみより)
資料提供：登米市立佐沼小学校

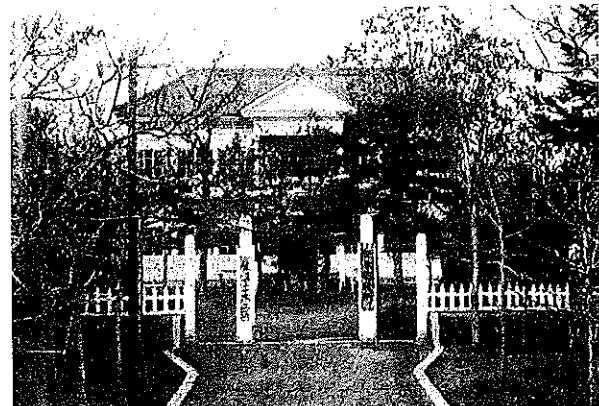


図4 旧登米郡役所 (登米郡史より)

図5 山添喜三郎 資料提供：登米市教育委員会

※喜三郎の概要是「資料館だより」第2号
を参照して下さい。

裏面もご覧下さい

同中同常同ト嵩監同中同明ニ余ノニハス廣而ク同デシ抑衛～明二略年高年年～岩督十略年治之ガ進於年ル堂シ～年之右欧ト出治十登等四十ヲヲスハ群ハヲ從歩テ博所莊テ会十ヲ神州共航五七米小月以以此年馬年掲事シ熟覽少閣一社一熟社ノニ～年町学ヨテテノ一県内グシタ覽會ナ及サノ月覽等建我シ～年栗原郡若柳町警察署建築米突テハ城新総都郡堅其長県築ニ佐役メ内五序ヲ階沼所同部十二設造新十八九煉間ワ計リ尋築九煉間ワ及ニ常工年瓦ニレ監百高事九石シ六督六等ヲ月長テ大シト小監落手横工ニ坪学督成ニ内ノ年設ニ二落計階十成及建年立三郡ス監二十督シ月シテ落同ニ成二百セ十坪リ一年同十郡月登落米成町ス尋

年ニヲ總同リニ二十内年設ニ二落計階十成及建年立三郡ス監二十督シ月シテ落同ニ成二百セ十坪リ一年同十郡月登落米成町ス尋

空五浜間寸街道ハ基道石礎ノ灰石内一及水コ東界ン西隣ク入道リ口工「ハ事花ヲ

喜三郎が書いた経歴の前段に、博覧会場の日本庭園の中に神社、商店を建築し、建築終了後に市街村落の家屋や工場の建築を見て回った様子が書かれています。

また、ロンドンの会社が神社や商店を購入したことから、博覧会終了後、ロンドンに行き神社、商店を移築、土蔵を建築して、明治7年に仏国パリを経由して日本に帰国したことも書いています。

第二十二章

澳國博覽會後建築術の經歴

宮城縣仙臺市
山形市
喜三郎

資料1は「澳國博覽會參同記要(以下「參同記要」という。)」と呼ばれるもので、明治30年に出版されました。オーストリア・ウィーン博覽會は、明治6年に開催されましたので、開催から24年後に編集されたことになります。博覽會總裁には大隈重信、博覽會副總裁には佐賀藩士の佐野常民(後の日本赤十字社の創立者)が任じられました。

參同記要の出版目的として、「本書は、我邦澳國博覽會へ參同せし記事報告書進達歐州技術の伝習及び爾後の經歷等を略記し、以て現今世上に伝播し、一般に利用する物品改良進歩の起源を知らしめ、殖産興業に奮起進修せしむるを旨とす」と書かれています。

參同記要第22章に喜三郎の寄稿文が掲載されており、内容を見ると、明治19年10月から、登米郡役所新築工事を監督、明治20年10月落成、明治20年4月から佐沼町尋常高等小学校と並行して登米町尋常高等小学校(当時の登米小学校の名称)の設計及び監督、両小学校とも翌21年に落成、登米町警察署は21年設計及び監督し、22年に落成したことが書かれています。

経歴の最後に、明治27年栗原郡若柳町警察署の設計を行ったことが書かれています。

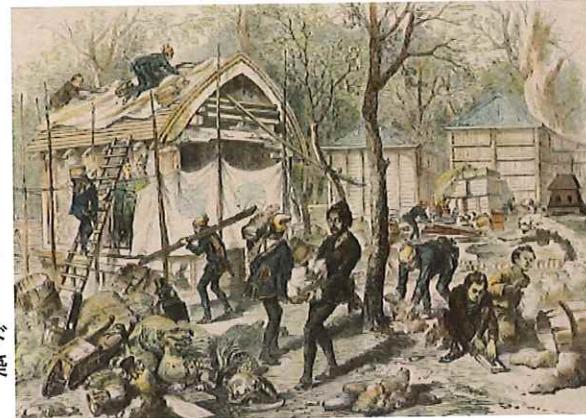


図7 ウィーン万博日本庭園造作の図

資料提供:佐野常民と三重津海軍所跡の記念館

右下でノミを研いでいるのが喜三郎と考えられています。

イベント情報

水沢県庁記念館では、展示資料のリニューアルに合わせ、「宮城県誕生150周年」に関する資料の展示を4月15日(金)から行います。皆様の来館をお待ちしております。

編集後記

山添喜三郎が宮城県技師であることは知っていましたが、内閣から宮城県技師に任じられたということは、今回初めて知りました。

また、技師という職位が私の認識と違つて、東京帝国大学を卒業した技術者に許された特権的地位であったことも知り、改めて時代における用語の使い方の違いに驚きました。

鎌田

次号の告知

次号は《警察資料館編》で、7月に発行予定です。

警察の役割は時代と共に大きく変化していました。その流れの一端を紹介しながら、山添喜三郎が設計・監督した「警察資料館」を考えてみることにします。



“みやぎの明治村”SNS 随時更新中です！ チェックしてみて下さい。